

上手な「頭の使い方」を 生徒にどんどん伝えたい

実力派の若手先生を紹介する「イケセン!」。記念すべき第1回は、創造的思考法「マインドマップ」を自分史づくりや教科の勉強法などに活用している荒康義先生です。

「生徒が楽しいと思える授業をしたい」と思い先生になりました。でも現場に行くと勉強が苦手な子、自分に自信を持ってない子がたくさんいて…。「どうすれば勉強が楽しくなるんだろう」「どうすれば自信を取り戻せるんだろう」と考え始めました。

夢や希望を描く前に 自己肯定感を育てる

04年に福島県立いわき総合高校で総合学科推進部の部長になったことが、このテーマをさらに深める契機でした。1学年の「産業社会と人間」の授業を「とことん充実させよう」と決意。キャリア教育関連の本や資料を読みあさりしました。

「産社」は未来を考える時間です。だからライフプランの作成を大きな柱に据えました。でも未来へのチャレンジ精神、目標設定への意欲がわからない生徒が意外に多いのが現実でした。歯がゆく感じていたとき「マインドマップ」を知り、「これは使える」と、すぐさま指導者資格を取りました。

うまく目標が設定できないのは、過去の

ネガティブな記憶が影響しています。そこでライフプランを考える前に自分史をマインドマップで描き、深く自己分析し、過去の自分を良い面からとらえなおすことをしました。たとえば勉強が嫌いになった原因は、実は先生で、勉強そのものが嫌いなわけではないと気づき、勉強への苦手意識を克服した生徒もいます。マインドマップを始めてから、自己肯定感が強まり、高い目標を掲げる生徒が増えました。現在、いわき総合高校では「産社」を学校の大きな魅力としてアピールしています。

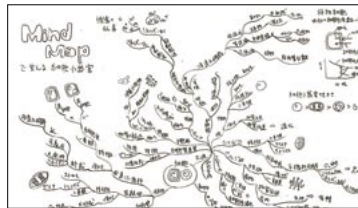
メンタルリテラシーという 新しい概念を広めたい

マインドマップの考案者、トニー・ブザンは「メンタルリテラシー」という考えも提唱。「脳の潜在能力を引き出す頭の使い方」という意味です。この新しい概念はキャリア教育だけでなく、教科の勉強や部活にも応用できると考えています。今後もこの分野への理解を深め、生徒や同僚の先生にどんどん還元したいですね。



福島県立福島西高校
荒 康義先生 (38歳)

いたずら好きのやんちゃ坊主が、小6のとき担任の先生との出会いを機に急成長。英語が苦手で大学受験に失敗するも、予備校の先生のおかげで英語大好き人間に变身した。マインドマップの指導者資格を保持。



マインドマップとはA4位の紙の中心にテーマとなるイメージを書き、放射状に言葉や絵をつなげ、発想を広げたり、考えをまとめる創造的思考法。福島西高校でも同僚の櫛田こずえ先生が書いたマインドマップが進路通信に載るなど、徐々に広がりがつある。

fan message



マインドマップ関連で知り合ってから、お世話になっています。苦勞して作られた教育コンテンツを惜しげもなく公開する太っ腹に感服。すごく勉強熱心で常に進化し続ける、優しく熱い方です。
(東京都立葛飾総合高校・須藤祥代先生より)